

小学生からのデートDV予防教育 ～まだ早いと思われませんか?～

NPO法人SEAN予防教育部門G-Freeコーディネーター 梶山恵美

2006年度から取り組み始めた【みんな生き生きプログラム】は小学校中学年～高学年に向けたデートDV予防教育授業。子どもたちの反応や意見を反映し内容を進化させながら、枚方市では2014年度から実施し、今年で6年目を迎えました。中学生に向けたデートDV予防教育【対等な関係って?デートDVについて考えよう】も2017年度から実施しています。

DVとは、【配偶者からの暴力】を指しますが、今10代～20代の若者の間でも【恋人からの暴力】つまりデートDVに悩む子どもたちが増えています。

DVの関係性は、自分の固定化してしまった性役割の価値観を相手に押し付け支配しようとする行為です。そしてその支配方法に暴力を用います。

恋愛をする、ということは本来とても素敵なことで、「好き」「うれしい」「ドキドキする」など相手へのプラスの感情や感覚からスタートすることが多いでしょう。ではなぜ、性役割の価値観などが固定化して押し付けてしまうのか?なぜ暴力という手段を選んでしまうのか?

それらは、恋人やパートナーができた時突然自分の中に発現するわけではありません。私たちは育ちの中で、学んで来たことを使って人間関係を作っていきます。固定化した価値観を学び、暴力を伴ったコミュニケーション方法を学べば、それを使って生きていこうとするのは、ある意味自然な形です。

子どもたちとの授業の中では、それら一つ一つに気づ

き、考えていきます。

小学生プログラムの内容を中心にご紹介します。

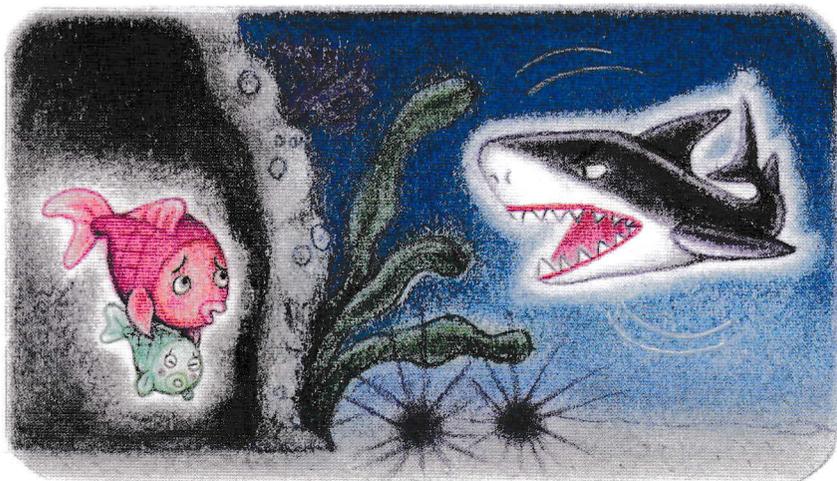
性役割の価値観の固定化

【女の子】

「部屋を片付けなさい」「大声出さな」「キレイにしなさい」
「男の子が遊ぶ遊びをしないで」

【男の子】

「泣くな」「いっぱいご飯食べろ」「力仕事して」「勉強しなさい」
「女の子に手をあげるな」



授業の中で「男だから、女だからと何か言われたことがありますか?」の質問に小4または中2の子どもたちが答えてくれた意見の一部です。

女だから、男だからという言葉をつけなくてよ

いものがあると思いませんか?

この性別に関する社会的規範はジェンダーと呼ばれ、男の子は強くたくましくリードする、女の子は優しくかわいく一歩引いて男性を立てるというメッセージを送り続けています。

意見を言ってくれた子どもたちに「その時どんな気持ちだった?」と聞くと「腹が立った」「いやだった」「悲しかった」と感じています。そしてその感情にフタをすることで大人達や社会に合わせていくようになる子は少なくありません。

デートDVの被害者または加害者にならないためには、ジェンダーにとらわれずに恋人同士が対等に意見を言い合